

## 授業で子どもを創る・授業で学級を創る

子どもが先生を尊敬すれば、ほとんど問題はおこらない。では、どこで子どもは、先生を尊敬するのだろうか。それは、授業である。子どもたちが、「わかった」「勉強が楽しい」「新しいことを知った」というような授業をすれば、子どもたちは、先生を尊敬する。

先生を尊敬すれば、授業も学級経営も生徒指導もうまくいく。

また、学校生活の中で、授業時間が一番長い。ものの見方や考え方等、学級経営、生徒指導に関することを関連付けながら授業をしていくことが重要である

しかし、現場は、

きちんとあいさつができる。  
姿勢がよい。  
先生のほうを向いて話を聞く。  
よそ見をしない。  
無駄話、私語はしない。  
宿題は忘れない。  
忘れ物はしない。 など



これは、子どもたちが学習した**結果**である。  
ところが、**目的化**しているのが現状である。

を強要する。

その上

- ・学習規律と称して管理教育をする。
- ・力でおさえる。(怖い先生)
- ・楽しい授業と称してイベントをたくさん入れる。授業は、教師主導型一斉指導。  
面白くない「授業」は、少なくする。
- ・学級目標や禁止事項を大きく掲げる。そして、「〇〇しよう。」と強要する。

これでは、学級崩壊に向かっていっているようなものである。

子どもを創る・学級を創るために絶対必要なのは、先生の授業力である。

そこで、授業力をつけるためにどうするか。

まず、指導者が、

1. よい授業を見せる。
2. 担任の学級で授業を見せ、子どもの変容を見せる。 ことである。

そして、授業の重要性を実感させ、その上で授業の創り方を指導することである。

そこには、十分な説得力が存在するであろう。

しかし、

家庭で行わなければならない「**躰**」が、十分でない子どもたちもいる。

その子どもたちには、親に代わってしっかり「躰」をする必要がある。

※「躰」と称して、学習規律を押し付けたり、管理教育をしたりしているのが現状である。

※躰とは、「人間が、人間社会で生きていくために必要な事柄」である。

授業力をしっかりつけて、よい授業をして、  
尊敬される先生になって、躰をしっかりと